

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00931

研究課題名（和文）家族と労働市場における階級・ジェンダー・エスニシティの相互作用と不平等の比較研究

研究課題名（英文）The comparative study on the intersection between class, gender and ethnicity in the field of family and labor markets

研究代表者

竹ノ下 弘久（Takenoshita, Hirohisa）

慶應義塾大学・法学部（三田）・教授

研究者番号：10402231

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、階級・ジェンダー・エスニシティという3つの重要な不平等形成メカニズムに注目し、それらが日本の家族と労働市場の社会的場面において相互にどう関係し、そこからどのような不平等が生じるのかを理論的、実証的に明らかにしてきた。本研究プロジェクトの研究成果を報告書としてまとめ刊行した。第一部では、教育・労働市場をめぐる不平等について検討し、所得格差の要因分解など、日本での周辺的地位にある人々の状況について考察した。移民をめぐる不平等については、移民の子どもの教育機会の不平等、大人世代における失業、賃金について検討した。また移民統合とウェルビーイングとの関係に注目するなど、多角的視点から考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、階級、ジェンダー、エスニシティという3つの不平等形成メカニズムに注目し、それらの相互の関係を明らかにする点にある。日本の先行研究の多くは、戦後の長い期間、階級のみ注目してきたが、近年では、ジェンダーとエスニシティが階級とどう関係して不平等が形成されるかが注目されている。日本社会では男女の格差が大きく、階級・階層構造にも大きく影響してきた。本研究では、ジェンダーと階級の不平等がエスニシティの不平等にも影響しているという仮説から検討した。人口減少下で、女性の就労率が上昇し、移民受け入れの拡大がなされる日本社会では、本研究のテーマ設定は、社会的にも意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research focused on three important mechanisms by which inequality is formed, such as class, gender, and ethnicity. It also identified how class, gender, and ethnicity relate to each other and what inequalities arise from them in the family and labor market in Japan. The results of this research project was published as a form of discussion papers in the research report. The first part of the report examines inequality over education and labor market, and discusses the situation of people in peripheral positions in Japan, including decomposition of income inequality. In terms of inequality surrounding immigrants, the report examined inequality in educational opportunities for children of immigrants, unemployment and wages among the first generation. We also examined the relationship between immigrant integration and their subjective well-being.

研究分野：社会階層論・計量社会学

キーワード：階級 ジェンダー エスニシティ 移民 制度 不平等 非正規雇用

1. 研究開始当初の背景

多くの研究者が依拠する階層理論の枠組みに、地位達成モデルがある。地位達成モデルは、アメリカで考案され、人種差別と不平等にかかわる分析枠組みも有しているが、日本の階層研究では、日本社会における人種的、民族的均質性を理由に、そうした視点は導入されなかった。加えて、世界的にも不平等の形成メカニズムを考察するとき、ジェンダーの視点は欠かせない。とりわけ、男女格差の大きな日本社会では、ジェンダーは不平等形成に大きな役割を果たしてきた。

ジェンダーを不平等形成メカニズムの中心に置くと、重要な論点が、日本社会における正規・非正規雇用間の格差である。非正規雇用の仕事は、柔軟な働き方が可能な半面、賃金の上昇、技能形成、昇進機会がきわめて限定的であった。そして、非正規雇用の就労は、既婚女性に大きく適用され、男女間の不平等を形作ってきた。さらに非正規雇用は女性だけでなく、移民や民族的マイノリティにも用いられ、彼・彼女らは多様な非正規雇用の形態で活用されてきた。

日本社会のこうした現実からも、階級、ジェンダー、エスニシティの相互関係を明らかにすることがきわめて重要である。

ジェンダーを不平等形成の重要な軸として考えるとき、労働市場に加えて家族の中でどのように不平等が形成されるかを考えることも必要である。家族の多様化が格差・不平等を伴って進展している。ジェンダーとエスニシティという観点からは、国際結婚の増加と家族の変化が不平等にどう影響するかを考えることも、重要である。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル化をはじめとする現代社会の社会変動が進展する中、家族と労働市場の局面において、階級、ジェンダー、エスニシティの相互の関わり合いが、不平等の形成にどのように関与しているのかを、具体的には次のように明らかにする。

第1に男女間の不平等が、家族と労働市場の局面においてどのように形成されているのか、そのとき階級によるメカニズムとジェンダーによるメカニズムが相互にどう絡まりあっているか、そうした相互関係が、不平等をどう作っていくのかを明らかにする。

第2に、家族構造と労働市場をめぐる不平等を日本人と外国人を比較することで明らかにする。労働市場については、日本人と外国人をさらに男女に分け、非正規雇用をめぐる状況について検討する。家族については、移民と日本人との婚姻者に注目し、移民と日本人との婚姻者は移民同士の婚姻者と日本人同士の婚姻者との間で、どのような違いがあるのかを明らかにする。

3. 研究の方法

大規模な公的統計と従来からあるミクロな標本調査のデータとを組み合わせ、統計分析にもとづく計量社会学的方法を用いて、上記課題にアプローチする。本研究では、政府が実施する大規模調査の中でも、国勢調査と就業構造基本調査を用いて、分析と考察を行う。国勢調査は、外国人も含めて行われた大規模な公的統計であり、人口規模の小さな多様な集団の動向を明らかにすることができる。また、就業構造基本調査は、100万人弱を対象に調査が行われており、就業に関わる重要な質問が含まれていることから、階層研究にとって貴重なデータである。ただし、これら2つの調査は1時点で行われた横断調査であり、過去から現在にわたる変化を明らかにすることは困難である。そうした点については、パネル調査をはじめとするミクロデータを活用することで、こうした研究課題にアプローチする。

4. 研究成果

本研究プロジェクトでは、階級、ジェンダー、エスニシティという3つの重要な不平等形成メカニズムに注目し、それらが家族と労働市場の中でどのように作用しているかを明らかにする。研究を進めるにあたり、3つの班を組織した。1つ目は、家族と労働市場班である。この班では主に、日本人を対象とした不平等形成メカニズムとして家族と労働市場に注目し、それらを媒介するものとして教育の役割についても検討を行った。このグループの重要な研究成果として、賃金格差の増大が何によってもたらされているのかについての研究があげられる。1つの研究では、労働組合の果たす役割に注目し、近年の労働組合の組織率の低下と労働組合への労働者の帰属が、賃金格差にどのような影響を及ぼしたかを検討した。分析の結果、1985年には、労働組合への帰属は、賃金分布の下位や中位の人々の賃金を高め、分布の上位の人々の賃金を抑制していたことが分かった。しかし2015年には、労働組合への加入はこうした効果をもたなくなった。労働組合が賃金格差を抑制できなくなったことで、賃金格差の拡大に寄与していることが明らかになった(長松 2020)。

ジェンダーと階級との関係を家族と労働市場という観点からさらに追及するため、男女間賃

賃金格差の要因分解についての研究を行った。そして、国際比較という観点から男女間賃金格差にアプローチするため、日本、韓国、台湾、シンガポールの4か国の比較を行った。その際、男女間の賃金格差は、女性の経済的自立を困難なものとし、男女の結婚を大きく阻害するものと位置づけた。その上で、4か国比較を通じて男女間賃金格差が、各国の制度状況とどのように関連しているのかを明らかにしようとした。分析の結果、他国と比較して日本における男女間賃金格差をより明確に明らかにすることができた。構成効果については、男女間の非正規割合の相違が、賃金分布の下位と中位における男女間賃金格差を説明することが分かった。学歴と結婚については、男女で賃金に及ぼす効果が異なっていて、それが男女間賃金格差を説明することも分かった。学歴と結婚の賃金構造効果は、賃金分布の位置に関わらず、一定であることも分かった。日本における男女間の格差は、人的資本や男女の家族責任の相違、ジェンダーにもとづく労働市場の分離によって生じていることが明らかになった (Takenoshita 2020)。

階級、ジェンダー、エスニシティの3者の相互規定的関係を明らかにするために、日本、アメリカ、スウェーデンにおける移民女性の労働市場参加について比較分析を行った。移民女性の動向を明らかにするために、ネイティブの女性と比較して、未婚者と既婚者の比較を行った。既婚者についてはさらに、移民とネイティブとの婚姻に注目し、ネイティブとの婚姻が労働市場への参加や退出とどのような関わりがあるのか、各国の国勢調査データを用いて比較分析を行った。日本はアメリカやスウェーデンと比べて、女性の就労率、労働市場参加率が低く、既婚女性の非労働力率が最も高かった。さらに、移民女性が日本人男性と結婚するとき、日本人女性が日本人男性と結婚するよりも、さらに非労働力率が高まることが分かった。対照的にアメリカやスウェーデンでは、ネイティブと婚姻することが非労働力率を高めるようなパターンは観察することができなかった。移民女性が、移民であることと女性であることの二重の負担が、よりジェンダー役割にもとづく行動を一層要請されていることが、こうした比較分析から明らかになった (Ivory et al. 2020)。

Ivory, Tristan, Guilherme Kenji Da Silva Chihaya, and Hirohisa Takenoshita. 2020. "Insider out: Cross-national differences in foreign-born female labor force participation in the U.S., Sweden and Japan." Paper prepared for the annual meeting of Society for the Advancement of Socioeconomics (SASE), held online, on August 18th to 21st.

長松奈美江 2020 「労働組合と賃金格差拡大」『社会学評論』71(3): 394-410.

Takenoshita Hirohisa. 2020 "The Gender Wage Gap in Four Asian Countries: Japan, Singapore, South Korea, and Taiwan." In: Matsuda S. (eds) *Low Fertility in Advanced Asian Economies*. SpringerBriefs in Population Studies. Singapore: Springer: 41-59.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 12件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 竹ノ下弘久・田上皓大 | 4. 巻 725 |
| 2. 論文標題 管理職昇進をめぐる男女間不平等と国際比較 労働市場と福祉国家 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 日本労働研究雑誌 | 6. 最初と最後の頁 57-68 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 SATO Yoshimichi | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 The Work System and Rationality | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 TRENDS IN THE SCIENCES | 6. 最初と最後の頁 86～87 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5363/tits.25.6_86 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 長松奈美江 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 労働組合と賃金格差拡大 RIF回帰分析および要因分解法による検討 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 社会学評論 | 6. 最初と最後の頁 394-410 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 Hirao Ichiro | 4. 巻 2020 |
| 2. 論文標題 A study of self-employment careers focusing on family structure, gender and labour market | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Impact | 6. 最初と最後の頁 57～59 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21820/23987073.2020.8.57 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 ARITA Shin | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 Work-related Institutions in Contemporary Japan from a Sociological Perspective | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 TRENDS IN THE SCIENCES | 6. 最初と最後の頁 68～70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.25.6_68 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 申在烈 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 初職としての自営業の選択が職歴と労働条件の変化に及ぼす影響 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 klips working paper series | 6. 最初と最後の頁 1-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Shin, JaeYoul | 4. 巻 67 |
| 2. 論文標題 Study on entering self-employment of young workers | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Business Venturing and Entrepreneurship | 6. 最初と最後の頁 247-257 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 平尾一朗 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 自営業と非正規雇用の退出後の雇用形態の探索的な比較 2015年SSM調査データを用いて | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 フォーラム現代社会学 | 6. 最初と最後の頁 18-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Shin Arita, Kikuko Nagayoshi, Hirofumi Taki, Hiroshi Kanbayashi, HirohisaTakenoshita, Takashi Yoshida | 4. 巻 19-02 |
| 2. 論文標題 Legitimation of Income Inequality in Japan: A Comparison with South Korea and the United States | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 FFJ Discussion Paper | 6. 最初と最後の頁 1-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Shin, JaeYoul | 4. 巻 142 |
| 2. 論文標題 "How Can we Achieve a Sustainable Redistributive Policy? Rethinking the Relationship Between Civic Engagement, Neighborhood Relationship and Labor Market Status" | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Social Indicators Research | 6. 最初と最後の頁 343-362 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11205-018-1922-3 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 阪口祐介 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 ジェンダー・学歴と初職非正規雇用リスクー就業構造基本調査を用いた趨勢分析 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 桃山学院大学社会学論集 | 6. 最初と最後の頁 55-90 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 Shin JaeYoul | 4. 巻 142 |
| 2. 論文標題 How Can we Achieve a Sustainable Redistributive Policy? Rethinking the Relationship Between Civic Engagement, Neighborhood Relationship and Labor Market Status | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Social Indicators Research | 6. 最初と最後の頁 343 ~ 362 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11205-018-1922-3 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 長松奈美江 | 4. 巻 697 |
| 2. 論文標題 階級・階層研究における多様な職業的地位尺度の比較分析 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 日本労働研究雑誌 | 6. 最初と最後の頁 18-28 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 石田賢示 | 4. 巻 35(2) |
| 2. 論文標題 日本における高校在学継続の国籍グループ間格差：2010年国勢調査の個票データを用いた実証研究 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 理論と方法 | 6. 最初と最後の頁 214-227 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.35.214 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 森山智彦・香川めい・多喜弘文・尾嶋史章 | 4. 巻 35 (2) |
| 2. 論文標題 若年期における無業への / 無業からの移行と高学歴化：21世紀成年人者縦断調査を用いて | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 理論と方法 | 6. 最初と最後の頁 243-259 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.35.243 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 小川和孝 | 4. 巻 71 |
| 2. 論文標題 「学校から職業への移行」をめぐる近年の研究動向と課題 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 東北大学文学研究科研究年報 | 6. 最初と最後の頁 54-68 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Mugiyama Ryota, Toyonaga Kohei | 4. 巻 38 |
| 2. 論文標題 Role of Cohort Size in Trends in Class and Occupational Returns to Education at First Job: The Case of Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 European Sociological Review | 6. 最初と最後の頁 269-285 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/esr/jcab037 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 打越 文弥、麦山 亮太、小松 恭子 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 職域分離とスキルからみる労働市場のジェンダー格差: | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 理論と方法 | 6. 最初と最後の頁 65-82 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.36.65 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Komatsu Kyoko, Mugiyama Ryota | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 Trends in Task Distribution in Japan, 1990-2015: Evidence from the Occupational Information Network of Japan and the Population Census Data | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Japan Labor Issues | 6. 最初と最後の頁 55-70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 麦山 亮太 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 地位の経歴からみる不平等の生成過程 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 理論と方法 | 6. 最初と最後の頁 4-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11218/ojjams.36.4 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 Takenoshita Hirohisa, Tagami Kota | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 Gender inequality in access to managerial positions in Japan from a cross-national comparative perspective: The role of labor markets and welfare states | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 Japan Labor Issues | 6. 最初と最後の頁 25-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

[学会発表] 計55件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 24件)

| |
|--|
| 1. 発表者名 Ishida, Kenji |
| 2. 発表標題 Co-ethnic Community and the Opportunity of High School Education in Japan: An Empirical Analysis Using 2010 Census Data |
| 3. 学会等名 The 2nd Congress of East Asian Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 小川和孝 |
| 2. 発表標題 看護職の社会階層上の位置づけに関する検討 |
| 3. 学会等名 第73回日本教育社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Sato, Yoshimichi |
| 2. 発表標題 Intra-generational Mobility between Regular and Non-regular Employment Sector |
| 3. 学会等名 UK-Japan collaborative research workshop II Culture, Class, Connection: Class and Inequality in the UK and Japan 'SOCIAL CLASS, REGIONAL INEQUALITIES & HISTORICAL CHANGE' (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Jasso, Guillermina and Yoshimichi Sato |
| 2. 発表標題 Studying Inequality: Some Questions and Answers |
| 3. 学会等名 The 13th Annual INAS Conference 2021 (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Igarashi, Akira and Ryota Mugiyama |
| 2. 発表標題 Discrimination against immigrants in the Japanese labour market: Factorial survey approaches |
| 3. 学会等名 American Sociological Association 116th Annual Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Mugiyama, Ryota |
| 2. 発表標題 Why non-regular workers are less likely to get married? A test of economic independence, job qualities, and opportunities to meet |
| 3. 学会等名 Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Spring Meeting 2021 (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 麦山亮太・小松恭子 |
| 2. 発表標題 テレワーク実施可能性の格差は拡大したのか：COVID-19前後の時系列比較分析 |
| 3. 学会等名 第72回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 麦山亮太 |
| 2. 発表標題 なぜ非正規雇用者は結婚しにくいのか：交際段階別にみた所得と仕事の質の役割 |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 麦山亮太・田上皓大 |
| 2. 発表標題 SSM職業分類と日本版O-NETのマッチングとその応用：賃金と健康との関連に着目して |
| 3. 学会等名 第71回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 麦山亮太・豊永耕平 |
| 2. 発表標題 高学歴化は大学の平等化機能を弱めるのか：大卒 / 非大卒における出身階層の直接効果の趨勢 |
| 3. 学会等名 第71回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 北村友宏 |
| 2. 発表標題 教育選択の数理モデルによる表現－社会学・経済学の視点から－ |
| 3. 学会等名 三田社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 北村友宏 |
| 2. 発表標題 教育投資行動の数理モデルによる表現－社会学・経済学双方の視点から－ |
| 3. 学会等名 第71回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 藤間公太・北村友宏・竹ノ下弘久・陳テイテイ |
| 2. 発表標題 追加出生についての社会階層論的検討：パネルデータを用いた家族の分析（3） |
| 3. 学会等名 第94回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 陳テイテイ・北村友宏・竹ノ下弘久・藤間公太 |
| 2. 発表標題 パネルデータの脱落・補正に関する分析 JLPS・KHPS・21世紀出生児縦断調査の比較を通して |
| 3. 学会等名 第72回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Educational investment in the host society and immigrant's wages in Japan: Identifying the causal mechanisms. |
| 3. 学会等名 2nd Congress of East Asian Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa and Sayaka Torngren Osanami |
| 2. 発表標題 Cross-border marriage and integration into the host society |
| 3. 学会等名 the meeting of Forum of Sociology, International Sociological Association, held at Polto Alegre, Brazil (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Place of education and immigrant's wage in Japan |
| 3. 学会等名 The meeting of Forum of Sociology, International Sociological Association, held at Polto Alegre, Brazil (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Sato, Yoshimichi |
| 2. 発表標題 The Relationship between within-Country and between-Country Inequality in Globalization |
| 3. 学会等名 The meeting of Forum of Sociology, International Sociological Association |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 麦山亮太 |
| 2. 発表標題 現代日本における世代内職業移動の趨勢：労働力調査データの分析から |
| 3. 学会等名 第70回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hirao, Ichiro |
| 2. 発表標題 The Mechanism of Entrance into Family Employment in Japan: From the Perspectives of Gender, Family and Labor Market |
| 3. 学会等名 The meeting of Forum of Sociology, International Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 有田伸 |
| 2. 発表標題 日本の非正規雇用とは結局何なのか？ 国際比較と社会学の視点から |
| 3. 学会等名 法政大学キャリアデザイン学会2020年第3回研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 申在烈・竹ノ下弘久 |
| 2. 発表標題 社会階層論から見るコロナ禍の中の労働 |
| 3. 学会等名 第70回数理社会学会大会（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|-------------------------|
| 1. 発表者名 田上皓大 |
| 2. 発表標題 勤続に伴う労働時間の変化 |
| 3. 学会等名 第70回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 北村友宏 |
| 2. 発表標題 日本型相対的リスク回避仮説の構築可能性 |
| 3. 学会等名 第69回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 北村友宏 |
| 2. 発表標題 教育選択の数理モデルによる表現 社会学・経済学の視点から |
| 3. 学会等名 第70回数理社会学会大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Place of education and immigrant's wages in Japan |
| 3. 学会等名 the workshop of comparative life course research, held at German Institute of Economic Research (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Inequality in access to housing in Japan: Wealth inequality and the role of family background |
| 3. 学会等名 the meeting of Research Committee 28 on social stratification and inequality, held at Princeton University (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Local labor market contexts and unemployment among immigrants in. Japan |
| 3. 学会等名 the international workshop on new directions in labor migration in Europe and the Asia-Pacific, held at University of Duisburg-Essen, Germany (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Inequality in access to housing in Japan: Wealth inequality and the role of family background |
| 3. 学会等名 the symposium of Korea Inequality Research Network, held at Chungnam National University, South Korea (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------|
| 1. 発表者名 森山智彦 |
| 2. 発表標題 脱工業化と離職 |
| 3. 学会等名 第68回数理社会学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yoshimichi Sato |
| 2. 発表標題 Intragenerational Mobility between the Regular and Non-Regular Employment Sectors in Japan: From the Viewpoint of the Theory of Mobility Regime |
| 3. 学会等名 2019 CASS Forum Road and Experience in the New Founding of China: Social Development during the Last 70 Years (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yoshimichi Sato and Zeyu Lyu |
| 2. 発表標題 Japanese Language Schools as Alternative Routes to the Labor Market in Japan |
| 3. 学会等名 The 114th Annual Meeting of American Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 長松奈美江 |
| 2. 発表標題 生活保護受給者の社会的孤立 「大阪市民の社会生活と健康に関する調査」から |
| 3. 学会等名 社会政策学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 長松奈美江 |
| 2. 発表標題 在日外国人の社会的孤立とメンタルヘルス |
| 3. 学会等名 日本社会学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Ryota Mugiyama and Fumiya Uchikoshi |
| 2. 発表標題 Trend in Occupational Segregation by Gender in Japan: The Role of Population Aging |
| 3. 学会等名 Population Association of America 2019 Annual Meeting (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Ryota Mugiya |
| 2. 発表標題 Trends in Women's Long-term Employment Trajectories around First Childbirth in Japan: Limited Role of Supply-side Change |
| 3. 学会等名 Research Committee of Social Stratification and Mobility (RC 28) Summer Meeting 2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 麦山亮太 |
| 2. 発表標題 就業経歴類型からみる出産・育児期女性の働きかたの時代的变化とその要因分析 |
| 3. 学会等名 第29回家族社会学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Ichiro Hirao |
| 2. 発表標題 The Mechanism Underlying Entrance into Family Employment in Japan: Using the SSM Survey Data of 2005 and 2015 |
| 3. 学会等名 第92回日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 有田伸 |
| 2. 発表標題 所得格差の受容と正当化に関する日米韓比較研究(3) 不利な立場にある人々による格差の過剰受容 |
| 3. 学会等名 日本社会学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 JaeYoul Shin |
| 2. 発表標題 Non-Regular Employment Risk in the Labor Market and Support for Redistribution |
| 3. 学会等名 2019 ISA RC28 Summer Meeting (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 竹ノ下弘久 |
| 2. 発表標題 移民の教育達成と賃金 在日外国人の社会統合に関する研究(2) |
| 3. 学会等名 日本社会学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Gender inequality in the transition into managerial positions: Institutional arrangements and intergenerational mobility |
| 3. 学会等名 Research Committee 28 on social stratification and inequality, International Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Transition into the managerial position in Japan: Globalization and promotion chances |
| 3. 学会等名 World Congress of Sociology, International Sociological Association (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Local labor market contexts and unemployment among immigrants in Japan |
| 3. 学会等名 International Metropolis Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Inequality in access to housing in Japan: Wealth inequality and the role of family background |
| 3. 学会等名 The international symposium: Frontiers of the study of social inequality (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Takenoshita, Hirohisa |
| 2. 発表標題 Does place of education matter among immigrants in Japan? |
| 3. 学会等名 East Asian Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Sato, Yoshimichi |
| 2. 発表標題 Intra-generational Mobility between the Regular and Non-regular Employment Sectors in Japan |
| 3. 学会等名 American Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Sato, Yoshimichi |
| 2. 発表標題 Institutions and Agency in the Creation of Social Inequality |
| 3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 林雄亮 |
| 2. 発表標題 離家の趨勢分析 性差・出身階層・ライフイベントに着目して |
| 3. 学会等名 東北社会学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Taki, Hirofumi and Shin Arita |
| 2. 発表標題 Reward Inequalities Caused by Educational Credentialism in East Asia: A Comparative Analysis Based on PIAAC Data |
| 3. 学会等名 Research Committee 28 on social stratification and inequality, International Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Arita, Shin |
| 2. 発表標題 Inter-Subjective Differentiation between Regular and Non-Regular Employment in Japan: Increasing Labor Market Flexibilization and Legitimization of Reward Inequality |
| 3. 学会等名 World Congress of Sociology, International Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hirao, Ichiro |
| 2. 発表標題 The Influence of the Family in the Withdrawal from Self-Employment in Japan: Using the 2015 SSM Survey Data |
| 3. 学会等名 World Congress of Sociology, International Sociological Association (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平尾一朗 |
| 2. 発表標題 自営業や非正規雇用からの退出後にどのような雇用形態につきやすいか？ 2015年SSM調査データを用いて |
| 3. 学会等名 数理社会学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 平尾一朗 |
| 2. 発表標題 自営業と非正規雇用からの退出後について雇用形態の比較 2015年SSM調査データを用いて |
| 3. 学会等名 日本社会学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hirao, Ichiro |
| 2. 発表標題 Who is likely to become family employees in Japan?: Using the 2005-2015 SSM survey data |
| 3. 学会等名 数理社会学会 |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計4件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Matsuda, Shigeki, Takenoshita, Hirohisa | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Springer | 5. 総ページ数 84 |
| 3. 書名 Low fertility in advanced Asian economies | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 林 雄亮 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 288 |
| 3. 書名 青少年の性行動はどう変わってきたか | |

| | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 森山智彦、労働政策研究・研修機構 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 労働政策研究・研修機構 | 5. 総ページ数 220 |
| 3. 書名 70歳就業時代における高年齢者雇用 | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 渡邊 勉、吉川 徹、佐藤 嘉倫 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 260 |
| 3. 書名 少子高齢社会の階層構造2 人生中期の階層構造 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

竹ノ下弘久編『階級・ジェンダー・エスニシティの相互作用と不平等の実証研究』科学研究費補助金基盤研究（B）（18H00931）研究成果報告書

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|---|------------------------------|
| 研究分担者 | 長松 奈美江 (Nagamatsu Namie) (30506316) | 関西学院大学・社会学部・准教授 (34504) | |
| 研究分担者 | 阪口 祐介 (Sakaguchi Yusuke) (50589190) | 関西大学・総合情報学部・教授 (34416) | |
| 研究分担者 | 石田 賢示 (Ishida Kenji) (60734647) | 東京大学・社会科学研究所・准教授 (12601) | |
| 研究分担者 | 佐藤 嘉倫 (Sato Yoshimichi) (90196288) | 京都先端科学大学・人文学部・教授 (34303) | |
| 研究分担者 | 森山 智彦 (Moriyama Tomohiko) (00547903) | 下関市立大学・経済学部・特任教員 (25501) | 2018年度のみ研究分担者。2019年度から研究協力者。 |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| 研究協力者 | 永吉 希久子 (Nagayoshi Kikuko) | 東京大学・社会科学研究所・准教授 (12601) | |
| 研究協力者 | 麦山 亮太 (Mugiyama Ryota) | 学習院大学・法学部・准教授 (32606) | |
| 研究協力者 | 森山 智彦 (Moriyama Tomohiko) | 労働政策研究・研修機構・多様な人材部門・研究員 | 2018年度は研究分担者、2019年度から研究協力者。 |
| 研究協力者 | 石田 浩 (Ishida Hiroshi) | 東京大学・社会科学研究所・特別教授 (12601) | |
| 研究協力者 | 平尾 一朗 (Hirao Ichiro) | 大阪大学・特任助教 (14401) | |
| 研究協力者 | 小川 和孝 (Ogawa Katsunori) | 東北大学・文学研究科・准教授 (11301) | |
| 研究協力者 | 大久保 将貴 (Okubo Shoki) | 東京大学・社会科学研究所・特任助教 (12601) | |
| 研究協力者 | 北村 友宏 (Kitamura Tomohiro) | 慶應義塾大学・法学研究科・大学院生 (32612) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究協力者 | 田上 皓大 (Tagami Kota) | 労働政策研究・研修機構・多様な人材部門・研究員 | |
| 研究協力者 | 陳 テイテイ (Chen TingTing) | 慶應義塾大学・社会学研究科・大学院生 (32612) | |
| 連携研究者 | 有田 伸 (Arita Shin) (30345061) | 東京大学・社会科学研究所・教授 (12601) | |
| 連携研究者 | 太郎丸 博 (Tarohmaru Hiroshi) (60273570) | 京都大学・文学研究科・教授 (14301) | |
| 連携研究者 | 林 雄亮 (Hayashi Yusuke) (30533781) | 武蔵大学・社会学部・准教授 (32677) | |
| 連携研究者 | 藤間 公太 (Toma Kota) (60755916) | 国立社会保障・人口問題研究所・社会保障応用分析研究部・第2室長 (82628) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

| | |
|--|--------------------|
| 国際研究集会 International symposium on frontiers of research on educational inequality | 開催年 2019年～2019年 |
| 国際研究集会 近年の東アジアにおける格差・不平等の国際比較 | 開催年 2018年～2018年 |
| 国際研究集会 The international workshop of the mobility regime | 開催年 2021年～2021年 |

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|----------|------------------------------|---------------------------------------|--|--|
| 米国 | George Washington University | University of Missouri | | |
| スウェーデン | Malmo University | Umea University | | |
| 英国 | Cardiff University | | | |
| ドイツ | University of Duisburg-Essen | German Institute of Economic Research | | |
| 韓国 | Chung-Ang University | | | |
| その他の国・地域 | Academia Sinica, Taiwan | | | |